

授業科目		対象学科・専攻	年次	期別
児童家庭福祉Ⅱ Child and Family Welfare Ⅱ		児童教育学科 幼児教育学専攻	2年次	後期
講義・演習・実技・ 実習・実験	単位数	卒業認定	担当教員	
講義	2	選択	今川 晋平・梅田 美穂	
概要				
<p>児童福祉施設において活用できる援助技術や支援方法への理解を深めるとともに、児童福祉施設に従事する者として求められる資質や専門性について考えることをねらいとし、「児童家庭福祉」で学んだ知識等をふまえ、児童家庭福祉における今日的課題でもある児童虐待を中心に解説する。</p>				
到達目標				
<p>(1) 児童福祉施設等において活用できる援助技術や支援方法を説明できる。  (2) 児童福祉施設等の従事者に求められる専門性について、自分の考え等を述べることができる。  (3) 児童虐待への支援方法について、自分の考えや意見を述べるができる。</p>				
授業内容とすすめ方				
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 児童家庭福祉Ⅱで学ぶこと ―オリエンテーション―</li> <li>2 児童福祉施設の現状</li> <li>3 児童福祉施設の課題</li> <li>4 児童福祉施設で働く保育士の役割 ―実習からの気づき―</li> <li>5 児童福祉施設で働く保育士の役割 ―映像から学ぶこと―</li> <li>6 記録の書き方、伝え方</li> <li>7 事例の読み方、考え方</li> <li>8 児童虐待事例研究① ―準備から開始に向けて―</li> <li>9 児童虐待事例研究② ―アセスメントに取り組む―</li> <li>10 児童虐待事例研究③ ―援助計画を立てる―</li> <li>11 児童虐待事例研究④ ―実施・評価・終結まで―</li> <li>12 児童の権利擁護について① ―児童の権利とは―</li> <li>13 児童の権利擁護について② ―児童権利条約を読み解く―</li> <li>14 児童の権利擁護について③ ―権利擁護の現状と課題―</li> <li>15 児童福祉施設における保育士の専門性</li> </ol>				
テキストおよび 参考文献	<p>参考文献：講義時に資料を配布。参考文献は ミネルヴァ書房編集部 編「保育小六法」ミネルヴァ書房</p>			
メッセージ な	<p>児童養護施設等の児童福祉施設で働くことを考えている学生が、実習時のふりかえりや就職の際に役立つ情報を提供していきたいと考えている。 保育士証：選択必修科目</p>			

ループリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) 児童福祉施設等において活用できる援助技術や支援方法を説明できる。	問題なくほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いはないが基本的な説明をすることが可能である。	最低限度の説明はできる	説明できていない。	定期試験 (知識・理解)	40%
(2) 児童福祉施設等の従事者に求められる専門性について、自分の考え等を述べるができる。	問題なくほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いはないが基本的な説明をすることが可能である。	最低限度の説明はできる	説明できていない。		30%
(3) 児童虐待への支援方法について、自分の考えや意見を述べるができる。	児童虐待への支援方法や社会的状況を正しく認識してほぼ完璧に自分の意見を述べるができる。	児童虐待への支援方法や社会的状況を基本的な説明をすることが可能で自分の考えを述べるができる。	児童虐待への支援方法や社会的状況を最低限度の説明はでき自分の考えを述べるができる。	自分の考えを述べていない。	課題レポート (関心・判断・思考・把握)	30%